

農林水産統計観測審議会農林水産統計部会農作物生産量統計小委員会議事要旨

1 日 時 平成11年10月8日(金)15時～17時

2 場 所 南青山会館

3 出席者 【小委員会委員】

秋田 重誠 鵜飼 保雄 国定 正俊

畑中 孝晴 堀江 武 宮崎 礼子

【事務局】

新野生産統計課長 須賀原生産統計課総括課長補佐ほか

4 議 題

水稻10a 当たり平年収量算定方式について

5 議事概要

今後の水稻10a 当たり平年収量算定方式について

・主な質疑応答

委 員： 毎年算定していた平年収量を複数年固定にするのはなぜか。

事務局： 近年，水稻の安定栽培技術が普及・定着していることや，現在の技術開発が収量よりも食味や生産効率の向上を重視していることから，今後の収量水準の変化は小さいものと見込まれる。このため，収量水準に対する技術の影響の評価は，毎年行うよりも複数年の方が適していると思われることから，平年収量を原則として複数年（3年）適用するものとして算定することとしたい。

委 員： 平年収量を3年間適用している間に大きな収量要因の変動等があり，適用している平年収量では問題があると分かった場合には平年収量を見直すのか。

事務局： 収量要因に大きな変動があれば見直すこととしたい。

委員： 12～14年の傾向値は，3年間の平均値を採用しているのか。そうであれば，1年目は実態よりも高く，3年目は低いということにはならないか。

事務局： 3年間の各年の傾向値の平均値を採用しているが，3次関数であることから，必ずしも中間年の傾向値とはならない。また，そもそも収量水準の上昇の傾きが小さくなってきているために3年間適用の平年収量とするもので，御指摘の点は大きな問題とならないものと考えている。

委員： 今回の算定方式の見直しについて，農業団体等の感触はどうか。

事務局： 理解は得られるものと考えている。